

Nara National Museum

# 奈良国立博物館 だより

第85号

平成25年 4・5・6月



国宝 當麻曼荼羅厨子扉(奈良・當麻寺) 向かって左(内面)部分

特別展

當麻曼荼羅完成1250年記念  
**當麻寺**  
—極楽浄土へのあこがれ—  
4月6日(土)～6月2日(日)  
東・西新館

みほとけのかたち  
—仏像に会う—  
7月20日(土)  
～9月16日(月・祝)  
東・西新館

名品展

珠玉の仏たち  
通期開催  
なら仏像館  
中国古代青銅器  
通期開催  
青銅器館

特別展

當麻曼荼羅完成一二五〇年記念

# 當麻寺 —極樂浄土へのあこがれ—

4月6日(土)～6月2日(日)

當麻寺(奈良県葛城市)は二つのピークを持つ二上山の東麓に位置する寺院です。本尊はその名も「當麻曼荼羅」。阿弥陀如来の極樂浄土の様子をあらわす、約四メートル四方の巨大な掛軸です。この曼荼羅は天平宝字七年(七六三)、一人の高貴な姫(中将姫)の極樂往生を願う思いによって織りあらわされた奇跡の曼荼羅として広く知られ、信仰され続けてきました。本展ではこの曼荼羅を三十年ぶりに公開します。

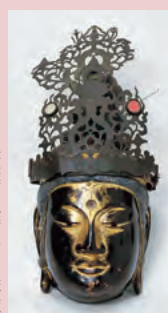
本展はこの「當麻曼荼羅」とともに極樂浄土信仰の聖地となつていつた當麻寺の信仰の歴史をたどり、一三〇〇年以上の歴史を持つ當麻寺の奥深い魅力に迫ります。寺宝に関連資料を加えて開催する史上初の「當麻寺」展にご期待ください。



◎持国天立像 (奈良・當麻寺)



◎吉祥天立像 (奈良・當麻寺)



菩薩面 (奈良・當麻寺)



◎當麻寺縁起 下巻部分(奈良・當麻寺)



中将姫坐像 (奈良・當麻寺)



◎當麻寺縁起 下巻【部分】 (奈良・當麻寺)





◎當麻曼荼羅〔文龜本〕【部分】（奈良・當麻寺）

国宝・綴織當麻曼荼羅（根本曼荼羅）を室町時代に写して作られたもの。中将姫が願った極楽浄土の世界が鮮やかにあらわされています。當麻寺の外で公開されるのは今回が初めてで、最後の機会になると思われます。

根本曼荼羅を含む「當麻曼荼羅」の展示替えは以下の通りです。

- ◆国宝・綴織當麻曼荼羅〔根本曼荼羅〕（奈良・當麻寺）  
4/6～4/14、4/23～5/6
- ◆重要文化財・當麻曼荼羅〔文龜本〕（奈良・當麻寺）  
4/16～4/21、5/21～6/2
- ◆重要文化財・當麻曼荼羅（京都・禪林寺）  
5/8～5/19

●綴織當麻曼荼羅（根本曼荼羅）（奈良・當麻寺）



特別展

みほとけのかたち

— 仏像に会う —

7月20日（土）～9月16日（月・祝）

仏像ブームと言われる昨今に、あらためて「仏像って何だろう？」という問題を考へて行く展覧会です。いろいろな仏像に出会いながら、仏像のすがた、かたちに込められた意味を読み解いて行くものです。



●薬師如来立像（奈良・元興寺）



# 国宝・梵鐘の特別公開と ”<sup>あか</sup>灯り<sup>しょうこん</sup>荘嚴<sup>しょうこん</sup>”LEDで拝する

## 當麻寺のみほとけ

内藤 栄（当館学芸部長補佐）

特別展『當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―』は、當麻寺に所蔵される名宝をはじめ、當寺の歴史と文化を知る上で欠くことのできない寺外の作品も出品されます。當麻寺の魅力を知るまたとない機会です。しかし、展覧会を鑑賞したからといって、當麻寺の全てをご覧いただいたわけではありません。

當麻寺の境内は国宝三棟を含む建築が軒を連ね、堂塔は荘嚴な空間を醸し出しています。また、當麻寺では仏像も数多く拝観することができます。金堂には根本本尊である国宝・弥勒<sup>みろくぶつ</sup>仏坐像をはじめ、重要文化財・四天王立像（持国天は當麻寺展に出陳）など飛鳥時代後期の仏像がまつられ、講堂には平安時代や鎌倉時代の仏像が多数安置されています。そして、本堂では螺鈿<sup>らでん</sup>の美しい須弥壇<sup>しゅみだん</sup>、奈良時代から當麻曼荼羅<sup>たまたまんだら</sup>を安置し続けてきた国宝・當麻曼荼羅厨子<sup>たまたまんだらずし</sup>をご覧ください。もちろん、

四季折々の花が咲き誇る各塔頭の庭園や文化財も、當麻寺の大きな魅力です。

展覧会にあわせ當麻寺にも脚を運んでいただき、當麻寺の全貌をご鑑賞いただくため、特別展『當麻寺』の会期中、国宝・梵鐘の特別公開と堂内照明を行うことになりました。當麻寺にはわが国現存最古として著名な梵鐘が伝わってい



国宝 弥勒仏坐像(金堂)

す。當麻寺がこの地に建立された六八〇年代頃の鑄造と考えられています。日頃は鐘楼<sup>しょうろう</sup>の上にあるため下から見上げることしかできませんが、今回は鐘楼の脇に足場を組み梵鐘を間近にご鑑賞いただけるようにいたします。また、梵鐘に照明を当てることで博物館と近い環境でご覧いただくようにします。

さらに、葛城市とシーシーエスの協力を得て、本堂、金堂、講堂の堂内にLED照明を設置し、仏像、須弥壇や當麻曼荼羅厨子を明るく照明の中でご拝観できるようにします。窓や扉から入る太陽光で拝観している日頃の雰囲気とは、違う姿を見せてくれると思います。須弥壇の螺鈿は嚴かな光を放ち、仏像の陰影は彫刻としての魅力をさらに増してくれることとでしょう。ぜひこの機会に當麻寺に脚を運び、當麻寺の魅力を満喫してください。



国宝 當麻曼荼羅厨子(本堂)



須弥壇 部分(本堂) 各所に螺鈿細工がみられます



簋(中国古代青銅器)(当館)



●伝義淵坐像(奈良・岡寺)



如意輪観音菩薩坐像(当館)



◎弥勒仏坐像(奈良・弥勒寺)

## 出陳一覽

### 名品展

### 珠玉の仏たち

なら仏像館

平成25年4月9日(火)～

### 〔天和の仏たち〕第1室

◎馬頭観音菩薩立像 浄瑠璃寺

◎十一面観音菩薩立像 西光院

◎観音菩薩立像 勝林寺

◎観音菩薩立像 文化庁

◎十一面観音菩薩立像 勝林寺

◎十一面観音菩薩立像 地福寺

◎弥勒如来坐像 西大寺

◎阿闍如来坐像 西大寺

◎准胝観音菩薩立像 文化庁

◎広目天立像 興福寺

◎多聞天立像 当館

◎地藏菩薩立像 万福寺

◎弥勒仏坐像 弥勒寺

◎薬師如来立像 元興寺

◎法華説相図 長谷寺

◎文殊菩薩坐像 薬師寺

◎十二神将立像(辰・未神) 室生寺

### 特別公開

〔定朝様の丈六阿弥陀像〕第1室

阿弥陀如来坐像 外山区

〔肖像〕第2室

◎伝義淵坐像 岡寺

◎法相六祖像(伝行賀) 興福寺

◎法相六祖像(伝神叡) 興福寺

◎重源坐像 浄土寺

◎重源坐像 浄土寺

◎重源坐像 浄土寺

◎重源坐像 浄土寺

〔如来の種々相〕第2室

◎阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺

◎釈迦如来立像(清凉寺式) 当館

◎釈迦如来立像 当館

阿弥陀如来立像(裸形) 当館

阿弥陀如来立像 個人

阿弥陀如来坐像 当館

阿弥陀如来坐像 金剛寺

阿弥陀如来坐像 当館

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

阿弥陀如来坐像 大慈仙町自治会

### 〔明王〕第7室

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 個人

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

◎不动明王立像 当館

◎不动明王立像 正寿院

### 〔神仏習合〕第11室

◎大将軍神坐像 大将軍八神社

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 薬師寺

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

◎大将軍神坐像 当館

### 名品展

### 中国古代青銅器

(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、罍、方彝、卣、甗、鼎、鬲、鬲簋、豆、盤、匜、盃、壺、鐘、鈇、扁壺、蒜頭壺、甗、鏡、博山炉、鎮子、鏡、鐙など(当館)

※◎＝国宝、○＝重要文化財  
※すべての展示において、  
内容を一部変更する場合があります。

※出陳品は都合により一部変更する場合があります。



## ❖ サンデートーク ❖

### 「第3日曜日は奈良博へ!」

サンデートークでは、毎月1回、第3日曜日の午後に当館の研究員や専門家がとっておきのお話をいたします。美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

聴講は無料、展覧会の観覧券等の提示は必要ありません。事情により話題内容が変わることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけください。

#### ■ 開催スケジュール(平成25年4月～8月)

4月21日(日) 「飛鳥仏の源流をたどる」

岩井 共二(当館学芸部教育室長)

5月19日(日) 「幸せの王国ブータンの仏教美術」

岩戸 晶子(当館学芸部研究員)

6月16日(日) 「図像から彫像へ  
ー宋本図像と二軀の文殊菩薩像ー」

山口 隆介(当館学芸部研究員)

7月21日(日) 「ハコ、いろいろ」

清水 健(当館学芸部主任研究員)

8月18日(日) 「国語と日本語  
ー近代の国語施策を振り返るー」

清水 功(当館副館長)

◆時間：各回とも午後2時～3時30分(午後1時30分に開場)

◆場所：当館講堂にて。定員194名(先着順)

◆料金：聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要)

#### ◆奈良国立博物館賛助会

平成25年3月31日現在、一般会員(個人)39名、一般会員(団体)19団体、特別会員5団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。

#### ◆キャンパスメンバーズ

平成25年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪成蹊大学芸術学部、大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院文芸学研究科、実践女子大学・実践女子短期大学、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良産業大学・奈良文化女子短期大学・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部

(以上、五十音順)

## ❖ 第42回 奈良国立博物館 夏季講座 ❖

毎年恒例の夏季講座も本年で第42回を迎えることとなりました。今回のテーマは「新しい仏教美術入門」です。今回の夏季講座では、仏教美術研究の第一線でご活躍の先生方をお招きし、専門的な立場から、仏教美術へのアプローチの仕方をご講演いただきます。特別展「みほとけのかたちー仏像に会うー」の観覧も含めて3日間の充実した連続講座です。どうぞ奮ってご参加ください。

開催日：平成25年8月20日(火)～22日(木)

主催：奈良国立博物館

会場：奈良県文化会館 国際ホール(近鉄奈良駅から徒歩約5分)  
※会場が変わりました。お間違えないようご注意ください。

受講料：3,500円

\*会場費、テキスト代などを含みます。受付け決定後に振り込んでいただきます。

定員：600名

\*先着順。ただし定員数の8割を超えてから到着した分は、奈良国立博物館バスポートメンバーを優先とし、その他は抽選で決定いたします。

応募方法：往復はがきによる郵送に限りします。

\*往復はがきに「夏季講座参加希望」と書き、  
[氏名・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢]を明記してください。  
\*奈良国立博物館バスポートメンバーの方は、カード番号もお書きください。  
\*返信用はがきには宛名を記入してください。  
\*はがき1枚につき申込者1名としてください。

受付開始：5月13日(月)

\*先着順で受け付け、受講番号と受講料振り込み先を記した返信用はがきをお送りします。

応募締め切り：7月16日(火) 必着

\*定員の8割を超えてから到着した分は、受入の可否を7月24日(水)までにご連絡いたします。

申込・問合せ先：〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館 学芸部教育室

TEL 0742-22-4464 FAX 0742-22-7221

\*ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.narahaku.go.jp/>

#### 【表紙写真解説】

### たいまんだらずしとびら 當麻曼荼羅厨子扉

国宝 六面のうち三面  
木製 黒漆塗 蒔絵  
縦三三・〇cm 横各六三・〇cm  
鎌倉時代 仁治三年(一二四二)  
奈良・當麻寺

當麻寺本堂に安置される當麻曼荼羅を取り囲む巨大な厨子の扉。国宝・當麻曼荼羅は中国・唐時代または奈良時代に織成されて同寺に伝わった綴織の観經变相図で、奈良時代末から平安時代はじめには厨子が造立され、同寺に安置されたと考えられる。扉は鎌倉時代に証(しょう)によって當麻曼荼羅が再評価されて衆目を集め、十三世紀半ばに厨子が改修された際に取り付けられたもので、内面の下方に二千五百五十余名の結縁者名や、仁治三年(一二四二)五月二十三日の年紀が確認される。左右三面ずつの観音開きで、各面にヒノキ材の一枚板を使用し、総体に丁寧な黒漆塗を施している。表裏には蒔絵で散蓮華や蓮池が描かれているが、特に内面の蓮池文は保存がよく、実在の蓮池を思わせると同時に、極楽に往生した者が生まれ変わる宝池をも思わせる、写実的で美麗な仕上がりをみせている。蒔絵作品としては最大級であり、大画面を破綻なくまとめ上げた蒔絵師・藤原貞経の力量が偲ばれる。

清水 健(当館学芸部主任研究員)

## ■ 特別展 當麻寺—極楽浄土へのあこがれ—

4月20日(土)「當麻曼荼羅と中将姫説話の諸相」

日沖 敦子氏(神戸学院大学専任講師)

5月4日(土・祝)「〔寺史〕のなかの役行者—當麻寺は役行者の旧跡に建つ」

川崎 剛志氏(就実大学教授)

5月18日(土)「當麻曼荼羅の信仰史」

北澤 菜月(当館学芸部研究員)

5月25日(土)「當麻寺の彫像」

岩田 茂樹(当館学芸部長補佐)

◆時間：いずれの回も午後1時30分～3時

(午後1時に開場し、入場券を配布します)

◆場所：当館講堂にて。定員194名(先着順)

◆料金：無料。ただし、入場の際には特別展「當麻寺」の観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください

## ❖ イベント情報 ❖

### ■ 當麻寺による法要

4月29日(月・祝) 午後3時15分より

「円光大師像御前法要」 當麻寺奥院

5月19日(日) 午前11時より

「導き観音祈願会 声明と尺八による音楽法要」  
當麻寺中之坊

### ■ 當麻寺による出張イベント@奈良博

4月7日(日)「中将姫と當麻曼荼羅絵解き拝礼式とともに」  
(講話と実演)

當麻寺中之坊院主 松村 實昭師

4月14日(日)「當麻寺聖衆來迎練供養会式と菩薩講」  
(講話と実演)

當麻寺護念院住職 葛本 雅崇師、菩薩講中

4月29日(月・祝)「極楽浄土へのあこがれ」(講話)  
當麻寺奥院方丈 川中 光教師

5月3日(金・祝)「當麻寺の雑学」(講話)  
當麻寺西南院住職 山下 真弘師

◆時間：いずれの回も午後2時から、1時間程度

(午後1時30分より講堂入口で入場券を配布します)

◆集合：当館講堂。定員180名(先着順)

◆料金：無料。ただし、入場の際には特別展「當麻寺」の観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

### ■ 當麻寺での現地特別公開

日本最古の梵鐘として名高い當麻寺の国宝梵鐘が、展覧会会期中當麻寺境内で特別公開されます。この期間のみ足場を組み、間近に梵鐘を見ていただけます。本展と併せて當麻寺にもお出かけください。

※伽藍三堂の拝観券もしくは本展覧会の半券が必要です。



国宝 梵鐘(當麻寺)

### ■ 當麻寺の拝観特別割引

展覧会会期中、本展と當麻寺\*を巡るスタンプラリーを実施します。本展観覧スタンプで當麻寺の拝観料が割引になり、當麻寺拝観スタンプで本展の観覧料が200円引となります(前売券や団体料金は対象外)。3つ以上のスタンプを集めた方には、記念品をプレゼントいたします。詳細は、当館ホームページに掲載いたします。

※伽藍三堂と4塔頭(中之坊、奥院、西南院、護念院)の計5か所。

## 「綴織當麻曼荼羅」

天平宝字7年(763)に一夜にして織り上げたと伝えられる国宝綴織當麻曼荼羅は、極楽浄土を描いた根本曼荼羅としてあつく信仰され、数多くの當麻曼荼羅が描き写され流布しました。今年は、當麻曼荼羅織成から1250年となる記念の年として、今回の特別展に30年ぶりに綴織當麻曼荼羅が公開されることとなりました。

このたびのシンポジウムでは、この公開を記念して日本における極楽浄土イメージの根本となった綴織當麻曼荼羅について、様々な角度から、最先端の研究者の方々による研究発表とパネルディスカッションを行い、綴織當麻曼荼羅に対する理解を深める機会といたします。

◇日時：平成25年4月27日(土)

午前10時30分より午後4時30分(午前10時に開場)

◇会場：奈良国立博物館 講堂

◇定員：150名(事前申込制、定員に達し次第締切)

### 【応募要項】

申込方法：往復はがきによる、郵送に限ります。

\*[学術シンポジウム聴講希望]と明記の上、[氏名・住所・

郵便番号・電話番号・性別・年齢]を記入して下さい。

\*返信用はがきには宛名を記入してください。

\*はがき1枚につき申込者1名としてください。

応募締切：4月12日(金) 消印有効

※定員になり次第締切します。

※入場の際には、特別展「當麻寺」の当日観覧券もしくははその半券、国立博物館パスポート等をご提示いただきます。

※講師・演題・時間割り等についてはホームページにてお知らせいたします。

申込・問合せ先：〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館 学芸部教育室

TEL 0742-22-4464 FAX 0742-22-7221

ホームページ：<http://www.narahaku.go.jp>

## もっと知りたい!奈良博の魅力 春の庭園散策しませんか?

当館の隠れた名所、茶室八窓庵<sup>はっそうあん</sup>をとりまく庭園をご案内いたします。庭園景観保全のため普段は立入を制限しておりますが、奈良の八重桜の開花にあわせ、当館ボランティアが見どころを解説いたします。

大和三名席に数えられる八窓庵をはじめ、心字池や樹木、石塔などが織りなす小宇宙をお楽しみいただけます。



◆日程：4月28日(日)

5月2日(木)

5月6日(月・振休)

◆時間：いずれの日も1回目午前10時30分～、  
2回目午後2時～

※所要時間約60分 ※小雨決行、荒天中止

◆集合場所：新館入口付近(出発30分前より整理券発行)

◆料金：無料

※ただし、展覧会の当日観覧券、もしくはその半券、  
国立博物館のパスポート等をご提示ください。

◆定員：各回とも先着20名 事前申込み不要



## 展示品の みどころ

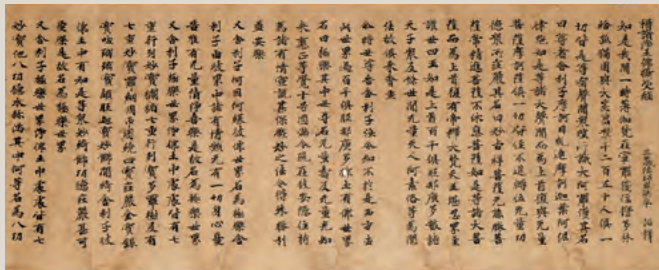
### しょうさんじょうどぶつしょうじゆきょう 称讃浄土仏摂受経

紙本墨書

1巻 縦26.0cm、長445.9cm

奈良時代(8世紀)

奈良・當麻寺蔵



『称讃浄土仏摂受経』(以下『称讃浄土経』)は、『阿弥陀經』の異訳で、釈迦が阿弥陀仏とその西方浄土を称讃し、阿弥陀仏の名号を持して極楽浄土に往生することを勧める、という経典。『阿弥陀經』は姚秦の鳩摩羅什の漢訳で、経文が簡明で美しいことから盛んに説誦され、浄土三部経の一つとして信仰を集めた。一方『称讃浄土経』は唐の玄奘の漢訳であり、詳細な訳を特徴としているが、同内容の『阿弥陀經』が経文の流麗さにおいて優れているせいか、唐・日本においてほとんど流布しなかったようである。

しかし一方で、奈良時代書写と目される『称讃浄土経』が多数存在しており、當麻寺伝来のものを含め、それらの多くは「中將姫願経」と称されている。これは、當麻曼荼羅を發願したとされる中將姫(横佩大臣の娘)が、出家前に『称讃浄土経』1000巻を書写した、というエピソードにちなんで付された名称である。

奈良時代の『称讃浄土経』といえば、天平宝字4年(760)の大量書写が注目される。これは、同年六月に崩じた光明皇太后の七七忌(四十九日)のために、東大寺写経所において『称讃浄土経』1800巻を書写させたもので、さらに各国の僧尼にも同経を書写させ、阿弥陀浄土画像と共に供養させた。現存する「中將姫願経」の多くは、この時に書写された大量の『称讃浄土経』の一部である可能性が高いと考えられている。

當麻曼荼羅信仰が高まる中で、高貴な女性のために大量書写された浄土経典という成立背景が、浄土信仰に基づいて曼荼羅を作成した高貴な姫の伝承と結びついたのであろう。

斎木 涼子 (当館学芸部研究員)

◆特別展「當麻寺-極楽浄土へのあこがれ-」にて展示(4/6~5/6まで)

じゅうに しんしょうりゅうぞう

### 十二神将立像 (12軀のうち申神・戌神)

木造、彩色

像高(申神)42.3cm (戌神)36.5cm

鎌倉時代(13世紀)

当館蔵

戦前まで神奈川  
県横浜市の太寧寺  
に伝来した十二神  
将像。当寺には本  
像が随侍していた  
薬師如来及び日光  
・月光菩薩像が  
いまでも本尊として  
祀られている。



像高一尺五寸に満たない小像だが、各像の表情や身振りに少しずつ変化をつけながら軽妙にまとめる構成は巧みであり、鎌倉時代以降の十二神将像に時折みられる頭上に戴いた十二支獣の性格を面相に投影させる手法も効果をあげている。とりわけ申神(写真右)の口をへの字に引き結んだ威厳のある風貌と、頭上で兜の鍔に片足をかけ、頭を掻いておどけてみせる猿との対照は見事であり、ここに作者のゆたかな構想力をみることができる。

もっともすぐれた出来映えをしめす戌神(写真左)が、神将像には珍しい巻髪にあらわされる点も見逃せない。関西一円には類品のない、中世鎌倉の信仰が生み出した姿であるが、この戌神にまつわる興味深いエピソードが『吾妻鏡』に綴られている。

建保6年(1218)、執権北条義時は戌神の夢告を受けて、現在の鎌倉市二階堂の地に大倉薬師堂を建立、仏師運慶作の薬師如来を本尊に迎えた。すると、かの有名な鶴岡八幡宮での源実朝暗殺に際し、義時は実朝に随侍していたにもかかわらず、戌神の守護により難を逃れることができたという。巻髪の戌神は、時の執権を危難から救った靈験あらたかなほとけとして、近世に至るまで鎌倉人の厚い信仰を集めたのだ。

鎌倉宮(大塔宮)から北へ歩みを進めると、薬師堂ヶ谷の最奥に覺園寺がみえてくる。大倉薬師堂の後身としてその由緒を受け継ぐ寺院だ。茅葺きの薬師堂を中心に手つかずの自然が保持された清閑な境内は、中世鎌倉の面影をよく残しており、そこには義時の信仰がいまなお息づいている。筆者がおすすめする、一度は拝観に訪れたい鎌倉の名刹である。

山口 隆介 (当館学芸部研究員)

◆なら仏像館 名品展「珠玉の仏たち」にて展示中

### 開館日時(4月~6月)

#### ■開館時間

午前9時30分~午後5時  
・4月26日(金)以降の毎週金曜日は午後7時まで  
※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

#### ■休館日

毎週月曜日(4月29日、5月6日は開館し、  
5月7日は休館)

#### ■無料観覧日(名品展のみ)

5月5日(こどもの日)と5月18日(国際博物館  
の日)は、名品展の観覧料が無料となります。

### 観覧料金

#### 特別展「當麻寺-極楽浄土へのあこがれ-」

	一 般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,200円	800円	500円
団体・前売	1,000円	600円	300円

※団体は20名以上です。※前売券の販売は4月5日(金)まで  
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

#### 名品展

	一 般	大学生	高校生以下
個 人	500円	250円	無 料
団 体	400円	200円	無 料

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、  
障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの  
県営駐車場等(有料)をご利用ください。

 **奈良国立博物館**  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。  
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

